

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024～2025年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
老人クラブへの支援 (会員数)	老人クラブから日常の支え合い・助け合い等へつながることや行事へのお試し参加、夫婦そろっての参加について、老人クラブ会員によるチラシ作成や未加入の家庭訪問を実施し、参加を促している。 しかし、新規入会者の減少や高齢化による退会者の増加により会員数は減少傾向にあり、会員数を増やすことが課題である。	633人	目標	650人	660人	660人	①老人クラブグラウンドゴルフ部会は、毎朝の練習週や大会を実施し、多くの高齢者が参加している。競技の為に老人クラブの入会に繋がったケースも前年同様にあった。 ②町内11カ所のいきいき100歳体操や交流・軽食や、健康体操・太極拳講座等の開催により会員同志の誘い合いなどもあり参加者が増加した。 ③2025年も会員数を増やすための訪問等を実施や・チラシを作成し加入促進を図った。また、会員が楽しみにしている1日研修旅行を行う等、老人クラブでの行事は開催した。	○	老連役員会や地区部会で協議し、活動しているが、老人クラブの会員数は減少傾向にある。高齢化での退会が、新規入会より増加傾向にあり、退会者を防ぐことは不可である。その為に、未加入者の発掘を優先し、訪問時は老連活動に魅力を感じるチラシを配布を作成し、配布予定である。 今後も、魅力的な活動内容や、お試し参加等に関する情報発信を推進し、新規会員の増加を図る。永遠の課題として、移動手段を持たない会員が増加し、参加したくても参加できない方への対応策を早急に検討する必要がある為に、県老人クラブ事務所への他クラブの対策などを入手し、検討する。
防災対策の推進 (緊急通報装置貸与者数)	緊急連絡装置の貸与者数は増加傾向にあり、問い合わせ等も増加している。 避難行動要支援者台帳の見直し及び要配慮者に対する個別避難計画の作成を推進しているが、地域支援者の確保をはじめとする課題を有している。	20人	目標	21人	22人	22人	広報、町ホームページによる周知を実施した。施設入所、長期入院等に伴う撤去による減少があった。	△	防災対策としては緊急通報装置の設置状況を関係機関に共有している。設置トータル数は減少しているため、引き続き情報発信を行いさらなる周知に務めたい。
高齢者の見守り体制の推進 (見守り協定締結機関数)	民生委員による実態把握活動や配食サービス、民間企業2社と「高齢者等見守り活動に関する協定」を締結し、地域で活動する団体と連携することで地域での見守りを強化している。平成30年度には、各機関との連携を進めるため、意見交換の場等を開設する準備を行い、令和元年度に連携強化を進めるため各機関と情報共有を行った。	2機関	目標	3機関	4機関	4機関	令和7年度は4機関の企業と見守り協定を締結しており、配食サービスや緊急通報装置など、見守り協定外の見守りもある。 その一方で他に新規協定を結べるような企業が少なく、新規機関との協定締結には至っていない。	○	協定締結する業者の不足で、新規協定の締結は困難であるが、他市町村の状況等を参考にしながら新規協定の締結に積極的に取り組んでいきたい。 また、近年は郵便局の自治体向けの見守りサービスもあるため、郵便局の見守りサービスの活用や導入の見守り協定を検討していきたい。
交流機会の充実 (福祉センター講座参加者延人数)	健康の保持・増進を推進し介護予防を目的とした健康体操や太極拳等の各種講座や音楽回想等を実施し、利用者が生き生きと笑顔で参加・交流する機会を確保している。	567人	目標	560人	560人	565人	□俳句講座 5月～3月 (毎月第2・第4火曜日) ・178名 □書道講座 5月～3月 (毎月第1・第3火曜日) ・243名 □短歌講座 5月～3月 (毎月第3火曜日) ・71名 □陶芸教室 5月～3月 (毎月第1・第3金曜日) ・214人 (別途自主第2金曜日有) □けん玉教室 5月～3月 (毎月第1木曜日) ・52人 □健康運動 5月～3月 (毎月第1・3木曜日) ・216人	○	□俳句講座 年間22回開催予定 (毎月第2・4火曜日) □書道講座 年間22回開催予定 (毎月第1・3火曜日) □短歌講座 年間11回開催予定 (毎月第3火曜日) □陶芸教室 年間22回開催予定 (毎月第1・3金曜日) □けん玉教室 年間11回開催予定 (毎月第1木曜日) □健康運動 年間22回開催予定 (毎月第1・3木曜日) ・毎回、講座等開催時には、交流が健康維持に有利など、研究機関の追跡調査結果や大学などの研究論文により参加の意義を訴えつけていく。趣味を活かした講座等は好評で今後も参加者の増加が見込まれる。
協議体の設置 (活動地区数)	平成30年度に第1層協議体が4地区で立ち上がった。 第1層協議体会議を年1～2回実施しており、各地区での現状や課題等の情報共有を行っている。 今後も、新規地区の開拓を行い。地域のささえあい体制を構築していく。	6地区	目標	6地区	7地区	7地区	新規協議体の開設を1地区行った。 ・東老人集会所 延348人 ・西分老人集会所 延61人 ・南老人集会所 延257人 ・西老人集会所 延398人 ・椎本集会所 延274人 ・熊ノ庄集会所 延176人 ・泉谷集会所 延111人 ・下六条集会所 延91人 ・西分老人集会所 (8月新規追加) 延82人 ■総合計1,798人 (前年度比19%増)	○	今後も引き続き、地区の拡充に努め、協議体メンバーの育成を行っていききたい。 また、協議体会議を年2回実施し、課題の情報共有や対応策の協議を行い、地域のささえあい体制を構築していく。高齢者の移動手段の持たない住民同志が、地区の集会所を利用し交流出来るよう今後も推進していく。

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024～2025年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
介護予防普及啓発事業 (介護予防教室参加者数)	対象者にアンケート調査を実施した上、専門職による栄養、口腔衛生、運動講習を行う介護予防教室等を開催し評価している。 しかし、受講者数が少ないため、より一層の広報活動等が必須である。	14人	目標	20人	23人	23人	介護が必要になる前に、健康を維持し、生活の質を向上させるために、楽しく参加し、実践できる介護予防教室を開催。 7月～9月 11回 12月 振返り 1回 ・理学療法士による運動機能向上のための運動教室 ・栄養士による栄養改善・指導・相談 ・歯科衛生士による口腔機能向上指導	○	地域包括支援センターでの虚弱高齢者を十分に把握し、必要な人に情報が行き届き、より多くの方が介護教室に参加するしくみとその実践が課題。
フレイル予防 (フレイルサポーターの地域における活動回数)	令和4年度から上板町フレイルサポーターを養成し、地域の通いの場等で活動している。 また、令和5年度より地域の通いの場に専門職を派遣し、体力測定評価やフレイル予防の啓発活動をフレイルサポーターと共に行っている。	31回	目標	108回	108回	108回	令和7年度は、31名のフレイルサポーターが地域で活動し、地域の健康づくりに取り組んだ。また、フレイル予防のためのSTOPフレイル!with徳島文理大学のイベントを開催した。	○	引き続き、上板町フレイルサポーターの地域における活動支援を積極的に支援し、フレイル予防の普及・啓発に取り組む。 また、イベントへの参加など、上板町フレイルサポーターが活躍する機会を増やしていく。
地域ケア個別会議 (地域ケア個別会議開催数)	令和6年度より地域ケア個別会議を開催。 利用者の自立支援と重度化防止、支援困難な個別課題の解決等に向け、多職種が協働でケアプランの検証を行い、有効な支援策を明らかにしている。 しかし、ガイドラインにおける対象のケアプランが少ないことが課題となっている。	1回	目標	2回	2回	2回	年2回開催。 高齢者の自立支援・自己実現に向けたケアマネジメント検討、困難事例の課題解決について2事例のケアプラン検証を行った。	○	上板町地域ケア個別会議ガイドラインに基づき、利用者の自立支援と重度化防止、支援困難な個別課題の解決等に向け、多職種が協働でケアプランの検証を行い、有効な支援策を明らかにしていく。
認知症サポーターの養成 (認知症サポーター養成講座参加者数)	認知症サポーター養成講座を受講する方が少なくなってきたため、令和4年度から認知症キッズサポーター養成講座を開催。 今後は、認知症への理解を深めるため、町内企業等でも認知症サポーター養成講座を開催する。	118人 延べ502人	目標	100人 延べ602人	100人 延べ702人	100人 延べ802人	町内の小学校4校で、認知症キッズサポーター養成講座を開催。	△	小学生から大人を対象とした認知症サポーター養成講座の継続及び町内企業等での認知症サポーター養成講座を開催を推進していくが、当面はキッズサポーター養成を軸に認知症の理解・啓発の強化に努める。
認知症地域支援推進員の活動 (地域での認知症地域支援推進員活動)	現在1名の認知症地域支援推進員のみで対応しており、総合相談やケアプラン作成をはじめとする各種業務が優先になっている。 このため、認知症地域支援推進員としての活動が思うように進んでいない。	—	目標	3回	3回	3回	5月から地域の通いの場や、地域のイベントに出向き、認知症に関する正しい理解や知識の普及・啓発を行うが、全会場までではできなかった。 また、10月には、上板調剤局管理薬剤師の阿部浩明講師に招き、「認知症とお薬について」と題した講演会を開催。	△	認知症について、町民の意識が高まっているように感じる。 講演会も、例年同様に認知症について講演会を計画しており、認知症について理解を深めるために、認知症本人や家族等、多くの方を対象に講演会等を開催予定 また、高齢化に伴い認知症の相談は増加傾向にあり、認知症への理解が支援に繋がるケースも少なくないため、今後も認知症に関する正しい理解や知識の普及・啓発に努めていく。
予防給付ケアマネジメントの実施 (自立支援に向けたプラン作成(延人数))	要支援1・2と認定された方全員の把握とともに、サービスを必要とする方への的確なプランの作成を進めている。 また、生活機能の向上を図るため明確な目標設定を持った重度化防止・自立支援に向けたケアマネジメントの充実に努めている。 しかし、要支援1・2と認定された方の急増により把握が十分でないことから確実な把握が課題となっている。	1,893人	目標	1,800人	1,800人	1,800人	・利用者が住み慣れた地域で自立した生活を送れるように支援(介護予防教室・いきがいデイサービスなど) ・利用者が自分で立てた目標に沿って、ケアプランを作成し支援。 ・介護予防・ケアマネジメント終了後、高齢者が自分で介護予防を行えるように支援。	○	利用者が、どのように暮らしたいかという目標を共有し、社会参加や自主的な取り組みを促す。
日常生活自立支援事業 (利用者数)	高齢化に伴い、利用者の増加による人員不足が課題となっている。 また、関係機関との連携も必要不可欠であるため援助に至るまでに時間を要している。	0人	目標	14人	14人	14人	契約者数8件 実利用者数7人 利用者から支払い方法や契約の仕方の相談があり一緒に関係機関の窓口に出向き、解決に取り組んだ。	△	自己判断が難しく不安になられる利用者さんもいるので、関係機関と情報共有し支援する必要を重視していく。

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2023 実績	年度	2024	2025	2026	2024～2025年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
ケアプランの点検、住宅改修等の点検・福祉用具購入・貸与調査 (ケアプラン点検数)	ケアプランの点検は、介護給付適正化システムを活用した点検を行い、疑義のあるサービス利用については担当ケアマネジャーへの聞き取りや面談を実施。 住宅改修等の点検・福祉用具の貸与分については、介護給付適正化システム等により不適切なサービス利用がないか確認を行う。		目標	20件	25件	30件	介護給付適正化システムを活用し、疑義のあるサービス利用については事業者にはアリアリングを行い、サービスの必要性等を確認した。	△	引き続き、介護給付適正化システムを活用し、介護保健事業の適正な運営を推進する。
		10件	実績	3件	6件				
医療情報との突合・縦覧点検 (医療情報との突合・縦覧点検)	国民健康保険団体連合会からの縦覧点検情報等を基に点検を実施している。疑義のある部分については介護給付適正化システムの活用、ケアマネジャーへ確認している。		目標	12件	12件	12件	国民健康保険団体連合会からの縦覧点検情報等を確認し、疑義のある部分については適正化システムを活用し、ケアマネジャーに確認を行っている。	○	引き続き、国民健康保険団体連合会と連携し、介護保健事業の適正な運営を推進する。
		12件	実績	12件	12件				
在宅医療・介護連携の推進 (在宅医療・介護連携推進事業)	郡内5町と郡医師会が定期的な意見交換等の場を設け、課題や解決策について情報共有を行っている。 「住み慣れた地域でいつまでも」をテーマとして掲げ、研修会や講演会を開催し、切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築に努める。		目標	3回	3回	3回	成年後見制度をテーマに、地域住民や多職種が集い上板町円卓会議*地域ケア会議を開催。また、板野郡内で開催された円卓会議にも参加。講師を招いて講演会を実施。「脳科学から見た認知症」(恩蔵絢子先生)、「人生会議ACP講座」(木下英孝医師)	○	今後も年1回、在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討を行うための円卓会議を開催し、医療機関や介護事業所等との連携を推進する。しかし、在宅医療・介護連携推進事業の取組が町民の皆さんになかなか浸透していないのが課題である。引き続き、郡医師会や町医師会と協力連携し、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう支援する。
		4回	実績	9回	8回				